

地域医療支援病院業務報告要旨

I 概要

病院名	フリガナ	カヤマキョクトビ ヨウイン
		岡山旭東病院
所在地		岡山県岡山市中区倉田567-1
管理者氏名		院長 吉岡 純二
承認年月日		平成23年7月29日
業務報告書提出日		令和7年10月1日

II 業務報告

対象期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
------	--------------------

1 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

承認要件	紹介率 50 % 超、逆紹介率 70 % 超	
紹介率	$\textcircled{1} / (\textcircled{2} - (\textcircled{3} + \textcircled{4} + \textcircled{5})) \times 100$	72.4 %
※患者数は延べ人数	①紹介患者数	8,454 人
	②初診患者数	14,392 人
	③地方公共団体又は医療機関に所属する救急自動車により搬入された患者の数（初診に限る）	1,698 人
	④休日又は夜間に受診した救急患者の数（初診に限る）	1,018 人
	⑤健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認めて治療を開始した患者の数（初診に限る）	0 人
逆紹介率	$\textcircled{7} / (\textcircled{2} - (\textcircled{3} + \textcircled{4} + \textcircled{5})) \times 100$	117.0 %
※患者数は延べ人数	⑦逆紹介患者数	13,672 人

2 共同利用の実績

高額医療機器共同利用件数	3,382件
共同利用病床数	10床
共同利用病床利用率	100.0%
共同利用施設・設備	開放病床、MRI、CT、PET－CT、RI、サイバーナイフ、骨塩定量、図書室
登録医療機関数	37機関

3 救急医療の提供の実績【（１）又は（２）のどちらかを選択すること】

（１）救急患者数

救急搬送による救急患者数	2,086人（1,182人）
救急搬送以外の救急患者数	1,091人（136人）
合計（うち初診患者数）	3,174人（1,318人）

※括弧内は、入院を要した患者数

(2) 救急医療圏（2次医療圏）人口における救急搬送患者数割合

A：救急用又は患者輸送用自動車により搬入した救急患者の数 (初診患者のみ)	人
B：救急医療圏（2次医療圏）人口※	人
C： $A/B \times 1000 > 2$	(小数点第1位まで記入)

※2次医療圏人口に関しては総務省統計局により実施された直近の国勢調査の人口（該当2次医療圏における市区町村人口の総和）を用いること。

(3) 救急用又は患者輸送用自動車所持台数

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

4 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

研修の内容	・肩疾患の治療および術後管理とリハビリテーション～地域の医療機関と連携を考える～ ・多発外傷など救急医療におけるせん妄診療とケアについて ・認知症 ～こんな時どうする～ ・骨粗鬆症治療の継続について 等	
地域の医療従事者への実施回数		12回
合計研修者数 ※院外からの延べ参加人数		683人
研修体制	研修プログラムの有無	有
	研修委員会の設置の有無	有
	研修指導者数	17人
研修施設	会議室（さくら、あさがお、ひるがお、ゆうがお、ひまわり）、講堂、放射線カンファレンスルーム、図書室	

5 診療並びに病院の管理運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者	院長	
管理担当者	事務部長、事務部次長、診療情報管理室長、医療秘書課職員	
診療に関する諸記録の保管場所		病院日誌は事務局保管、その他の記録等は電子カルテ保存（一部の紙媒体は診療情報管理室で保管）
病院の管理及び運営に関する諸記録の保管場所	共同利用の実績	医療秘書課 地域連携室
	救急医療の提供の実績	医療秘書課 地域連携室
	地域医療従事者向け研修の実績	医療秘書課 地域連携室
	閲覧実績	診療情報管理室
	紹介患者に対する関係帳簿	医療秘書課 地域連携室

6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者	院長		
閲覧担当者	事務部長、事務部次長、診療情報管理室長、医療秘書課職員		
閲覧に応じる場所	医療秘書課 地域連携室		
前年度の総閲覧件数			0件
閲覧者別延べ件数	当該病院に患者を紹介しようとする	医師	0件
		歯科医師	0件
	地方公共団体		0件
	その他		0件

7 委員会の開催実績

委員会の開催回数	4回		
委員会の概要	①令和6年5月21日 ・2023年度の業務報告について ・なかまち一ず活動について ②令和6年8月20日 ・2024年度4月～6月の業務報告について ・なかまち一ず活動について ③令和6年11月19日 ・2024年度7月～9月の業務報告について ・周術期管理チームの取組 ④令和7年2月18日 ・2024年度10月～12月の業務報告について ・急性期病院における糖尿病内科医の意識改革		

8 患者相談の実績

相談を行う場所	患者相談支援センター、医療福祉相談室、その他（病棟面談室・外来相談室）		
主たる相談対応者	社会福祉士（MSW）、事務部職員、地域連携室職員、入院前支援看護師、医療安全管理室リスクマネージャー		
相談件数			8,230件

相談の概要	①相談項目 ・ 経済的問題、家族問題、療養中の心理的・社会的問題、受診・受療に伴う相談、退院相談、他機関の紹介および連携、各種社会保障制度利用、病状関連（主治医との調整、確認、情報提供等）、インフォームド・コンセントの促進（設定および同席等）、アドボガシー、苦情等の相談 他 ②諸対策 ・ 医療福祉相談室のMSW（社会福祉士）8名と入院前支援看護師、地域連携室等が連携し入院から退院後のシームレスな相談体制を構築している。相談窓口については院内掲示、ホームページ、入院案内等に掲載し相談窓口の広報を行うとともに、院内各職種にその役割の啓蒙を実施しており、職員からの紹介経路も根付いている。また、院内外に対し医療・介護・福祉関連の制度等の情報発信の実施や地域活動として「認知症サポーター養成講座」や「ACP」「ヤングケアラー」等のテーマに対して啓発活動を実施した。 ・ 地域委の問題解決、インフォーマルネットワーク構築に向けて地域会議にもMSWが積極的に参加した。 ・ 患者が安心して治療療養に専念できるような環境作りに向けた院内における各種体制整備（患者相談窓口チーム、入退院支援チーム、医療安全対策チーム、地域連携委員会等）も積極的に行っている。地域連携強化に向けては地域連携室、地域連携担当医、入院前支援看護師等とコラボレーションし、地域の医療機関や他職種への挨拶回り、会合等に積極的に参加し幅広く取り組んでいる。
-------	---

9 地域医療支援病院に求められるその他の取組（任意）

（１）病院の機能に関する第三者による評価

病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
評価を行った機関名、評価を受けた時期	①日本医療機能評価機構（S評価：15項目） ・ 公益財団法人日本医療機能評価機構 2021年1月23日～2026年1月22日 ②ISO 15189臨床検査室・特定健診対応臨床検査室JAB RM100-2007 公益財団法人日本適合性認定協会 初回認定日：2009年3月23日 有効期限：2029年3月31日 ③人間ドック健診施設機能評価 日本病院会 有効期限：2028年3月31日 ④ジャパンインターナショナルホスピタルズ（JIH）の推奨を取得 認定日：2021年12月

注）医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

(2) 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	有
情報発信の方法、内容等の概要	・ 情報発信の方法、内容等の概要 当院では「地域連携室」(医療機関向け)と「企画広報室」(一般向け)と「地域医療サポート室」(一般向け健康企画、医療機関向け)で、役割分担し協働しながら情報発信をおこなっている。各2～4名の専任職員を配置して一元的に管理・情報発信できる体制を整えている。これらの活動により、院外の連携を促進し地域で紹介・逆紹介し合い、医療機関や専門機関と共に支えあっている。2019年9月にPHR(Personal Helth Record)アプリ「NOBORI」を導入し、患者自身の検査結果やレントゲン、MRI画像、投薬情報などの診療情報などを把握できることで、健康意識の向上に寄与している(利用者数1,200人超)。2021年7月には、病院独自のアプリ「旭東San」のサービスを開始し、外来診察待ち状況外来診察にかかる情報がスマホで確認できるようになった。2023年4月には入院案内を追加し、入院、手術に関する情報を確認することができ、患者の状況や対象に合わせた情報発信に努めている。 ・ 活動の目的は、「医療介護福祉従事者向けに行う高度先進医療の提供やチーム医療の推進」及び「市民向けに行う最新医療の提供啓蒙・教育」を2つの柱として、活動内容は以下の4分類となる。 i .医療介護福祉従事者向け「学習会」「症例検討会」(主催:当院)地域連携カンファレンス ii .市民向け「健康教室」(主催:当院).転倒予防健康教室・糖尿病教室-パーキンソン病健康教室・愛脳会 iii .市民向け「健康企画」(主催:院外).出前講座・地元大学との共同企画・地元企業との共同企画 iv 患者-市民向け「広報活動」(主催:当院)各種最新医療や健康に役立つ情報発信

(3) 退院調整部門

退院調整部門の有無		有
退院調整部門の有無概要	・患者相談支援センター内に医療福祉相談室（MSW8名）と退院調整看護師が常駐し退院支援を主に担っている。MSWを各病棟に配置し、全患者の入院時スクリーニングを看護師が行い、入院1週間以内に初期カンファレンスを開催、毎週診療科毎のカンファレンスと病棟による病棟カンファレンスにて他職種協働で退院支援のアセスメントおよび計画等を実施している。 ・個別支援における多職種チームとは別に、退院支援の質向上を目的に院内多職種による退院支援チーム（DST）を設置しそのチームを中心に、患者・家族が退院（転院）後も安心して療養生活が送れるように、多職種協働で質の高い退院調整・支援を行うための院内の体制構築およびシステムの定着化など退院支援の質向上にも努めている。 DSTの具体的活動内容としては、①退院支援における問題点の抽出および解決、②退院支援システムの内容の見直しおよび定着、③退院指導の標準化、④定期的啓蒙活動（スタッフの教育、勉強会開催等）を行っている。	

(4) 地域連携を促進するための取組

地域連携クリティカルパスの策定		有
策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 地域連携クリティカルパスを普及させるための取組	①策定した地域連携クリティカルパスの種類 ・大腿骨頸部骨折、脳卒中 ②地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み ・国策である5疾病5事業の医療計画に伴い、県内でも岡山市を中心として平成18年度から「地域医療連携が継ぎ目なく円滑に行われ良質の医療を提供する」ことを目的とした医療連携活動が発足し、大腿骨頸部骨折・脳卒中の地域連携パス運用組織である「岡山もも脳ネット」が平成20年に発足。 一病院完結型ではなく、連携病院完結型の治療計画や情報提供内容のフォーマットの作成、及び運用管理について、組織の立ち上げ当時から岡山版の構築や運用管理について、事務局的な役割を担う一病院として尽力している。2024年度は幹事病院である岡山市立市民病院を中心に引き続き、理事会・運用会議に定期参加を行った。今年度、口腔アセスメント（OHAT-J）を地域連携パスに導入にあたり、脳卒中・骨折患者の口腔管理、栄養管理を中心とした題目で、多専門職によるグループ討議に参加し、パスの改定に寄与した。	

病院名

岡山旭東病院